

(第2回) 宝塚観劇会 8月1日東京宝塚劇場「雪組」

宝塚歌劇の魅力～ 一糸乱れず “All for One, One for All” ～

アイアン・クラブの素敵な企画、宝塚歌劇観劇会に参加させていただきました。

5年ほど前に友人から「一度観てみたら」と勧められたのがキッカケ、以来すっかり虜になり今は毎月のように東京宝塚劇場へ、時には兵庫県の大劇場へも足を運ぶようになりました。この世界では“ツカオチ”したと云うそうです。

最初に心に響いたのは、豪華絢爛の舞台上で練り広げられる歌と踊りもさることながら、真ん中でスポットライトを浴びるトップだけではなく、舞台の端で殆ど注目されない中で下級生の皆さんが一切手を抜くことなく一生懸命に演じている姿でした。「誰も見ていなくても自らを律して安全行動を」と云う我々の現場にも通じるものを感じた次第です。

宝塚歌劇団は花、月、雪、星と宙の5組に2年間の音楽学校を卒業した生徒がそれぞれ約70名在籍、それぞれの組が年に2回、大劇場と東京で約50公演ずつを行う仕組みになっています。

宝塚の世界は先輩と後輩の関係が明確で、ある意味我々が経験した大学体育会よりも厳しいように見えます。“よりトップに近く”と云う上昇志向の強いメンバー、競争も激しく仲間でありながらライバルでもある70名が、舞台上ではトップスターを中心に一糸乱れず“All for One, One for All”という姿、理想の組織を見るようで、どのようにすればこのような組織体を作れるのか非常に興味を惹かれるところです。

各組には毎年約8名の新人が入る仕組み、単純計算では平均的な在籍年数は9年になります。たまたま知人のお嬢さんが現役ジェンヌ5年目で、その知人にお話を伺うと「組全体での稽古はもとより自主練に加えて休日には歌やダンスの個人

レッスン、時にはミュージカルの勉強にニューヨークブロードウェイにも行く」との事、元々高いモチベーションを持っての入団だとは思いますが、ここまで自己研鑽を貫く姿勢には感心させられます。



宝塚歌劇は創立105年、波はあったようですが今はチケット入手が困難になる程の人気、その中でアイアン・クラブが前回(66名参加)、今回(50名参加)と2回も観劇の企画をしていただいた事にとっても感謝しています。

今回の演目は芝居が『王生義士伝』、浅田次郎氏の同名小説が原作、ショーの方は『ミュージック・レボリューション』、歌唱力に定評がある雪組、取り分け望海風斗さんと真彩希帆さんのトップコンビの歌声は宝塚全体の中でもNo. 1との評判、ショーは宝塚らしい豪華絢爛さに溢れ、また雪組の素晴らしい歌の魅力が存分に発揮されていました。

アイアン・クラブでの宝塚観劇、この貴重な企画を今後も是非継続していただければと思っています。
(三輪 隆・記)